



山形大学  
Yamagata University

# 山形大学 教育改革グランドデザイン2030

(YU-Ed2030 ;Grand Design for Educational Innovation 2030)

～つなぐちから、ひろがるミライ～

令和7（2025）年3月

国立大学法人山形大学

# 目次

---

はじめに

1. グランドデザインの位置づけ
2. 大学を取り巻く環境
3. 山形大学の存在意義、強み及び課題
4. 山形大学教育改革グランドデザイン2030 (YU-Ed2030)
5. 戦略的重点領域とその教育を実現するための基本的観点
6. アクションプラン-教育の質改革・教育推進の経営改革
7. スケジュール
8. グランドデザイン策定にあたっての意見交換

# はじめに

山形大学は、山形市・米沢市・鶴岡市の3地区に4つのキャンパスを展開し、人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・医学部・工学部・農学部及び6つの研究科を有する総合大学である。2025年4月には社会共創デジタル学環が新たに設置される。新制国立大学として1949年に設置され、母体となった教育機関からの歴史と伝統を受け継ぎ、これまで優れた人材を数多く社会に輩出してきた。本学は、「**地域創生**」「**次世代形成**」「**多文化共生**」の3つを使命として教育・研究・地域貢献に取り組んでいる。2022年度には新たに、「**つなぐちから。山形大学**」を将来ビジョンとして掲げ、人と人、知識と知識をつなぎ、新時代を切り拓く人材と新たな知を創出し、多様な人々が出会い活躍する「**コモンズ**」として、地域から愛され、地域と共に発展する大学を目指すことを宣言した。

現在、我が国の高等教育は大きな転換点を迎えている。中央教育審議会による答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（2018年）では、社会人や留学生を含めた多様な学修者の受け入れや、学修者のニーズに対応した**学位プログラム中心の大学制度**への転換などが提唱された。2024年2月の答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」では、急速な少子化等を踏まえた高等教育全体の規模の適正化とアクセス確保、**教育研究の質の向上による知の総和の拡大**を目指すための高等教育政策の方向性と具体的方策が示されている。今後は、**各大学が自らの強みを中心に機能を強化し、我が国の成長の推進力となるような教育・経営転換を大胆に進めることが求められている**。とりわけ、東北地方・山形県は全国に先行して人口減少が進んでいる。2040年には県人口80万人台と、明治時代の人口規模にまで縮減することが予測されているが、少子高齢化、生産年齢人口の減少、若年層の流出などの課題は、明治時代とは全く異なる。その課題に対応するためには、地域における社会経済体制の変革が必要である。このような状況において、国立大学は知識基盤としての役割を果たし、地域社会と連携しながら社会変革を支えることが強く期待される。本学は、地域創生を使命とする知の拠点として、これからの社会変化に対応した経営体制を構築するとともに、総合知を活かし、地域との共創を通じた人材育成を推進することが責務である。

山形大学は、これまでの教育・研究の成果を検証し、社会環境の変化や国立大学としての役割、地域の期待に応えるための戦略的重点領域を設定し、大学と地域の持続的成長を支える学びの場を構築する。この取り組みを通じて、**大学と地域における「知」「人」「資源」の好循環を生み出し、人口減少・経済縮小の時代を乗り越える、強靱で持続可能な大学への転換を目指す**。2030年を目処にこの目標を実現するため、**本学でしか実現できない魅力的な学位プログラムの創出を目指す“教育の質改革”と、教育研究を実施・支援する組織運営体制の強化を目指す“教育推進の経営改革”**を一体的に推進するためのグランドデザインを策定する。

# 1. グランドデザインの位置づけ

山形大学  
3つの使命

地域創生

次世代形成

多文化共生

将来ビジョン  
(教育のビジョン)

## “つなぐちから。山形大学”

共育・共創・共生による持続可能な幸福社会の実現

山形大学は、地域・社会の「コモンズ」として、学生と地域の人々をつなぎ、多様な「共育」環境を生み出しながら、学生が自分の成長を実感できる学びを提供していきます。社会のいかなる変化にも対応できる「深く考え実行する力」と「果敢に挑戦する心」を持ち、他者と力を合わせて持続可能な幸福社会を創りあげる人材を育てます。

山形大学教育改革  
グランドデザイン  
2030

第4期(2022-2027)  
中期目標・中期計画  
(教育)

アクションプラン

## 山形大学教育改革グランドデザイン2030

中期目標2	専攻分野の思考力と幅広い教養を身に付けた人材養成（学士課程）
中期計画2-1	新たな「学び」を推進する教育改革   2-2 教学マネジメントの充実
中期目標3	研究者として必要な研究能力を備えた人材養成（修士課程）
中期計画3-1	教育プログラムの改善   3-2 高度専門人材育成
中期目標4	深い専門性と幅広い素養を身に付けた人材養成（博士課程）
中期計画4-1	教育プログラムの見直し   4-2 産業界等と連携したキャリア支援
中期目標5	中核となって活躍できる専門職人材養成
中期計画5-1	医師・看護師養成課程の高度化   5-2 教職課程の質保証
中期目標6	異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材養成
中期計画6-1	学生のグローバル交流拡大   6-2 多様な留学生の受入れ体制充実
中期目標7	学生の多様性の向上と安心して学べる環境の提供
中期計画7-1	多様な個性の理解促進   7-2 サポート体制の充実

- 教育の質改革 | ①教育組織再編 ②学位プログラムの再編 ③教育推進・質保証 ④入試・学生支援  
○教育推進の経営改革 | ⑤組織・人事制度 ⑥会計制度・情報発信 ⑦教育を支える基盤 ⑧教育環境

## 2. 本学を取り巻く状況

### 大学教育の変革と人材育成

- ・ 激しく変化していく未知なる将来に向けて、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用が重要
- ・ 企業における人材育成は機能しなくなっており、即戦力の人材が期待
- ・ 少子化による将来的な労働力需給の低下が懸念される一方で、持続可能で活力ある社会を維持・発展させていくために、起業家教育やリカレント教育への期待
- ・ 文理横断教育・デジタル教育等、新たな教育推進への期待。特に、国立大学においては、理工系人材の育成強化、大学院の強化・充実が期待
- ・ 教員不足の解消とともに質の高い教員の養成への期待

### 地域における社会及び高等教育の課題

- ・ 本学が位置する東北地区では、急激な少子化が進行。10年後の18歳人口は山形で2割減、宮城では1割減となることが予想。本学における山形県出身者の比率は低下しており、その結果、山形県へ定着する人材が減少し、中核となる生産年齢人口の減少が予想
- ・ 少子化により本学を含む山形県の高等教育機関においては、一定水準の学力を有する学生の確保が一層厳しくなることが予想される
- ・ 山形県内の各高等教育機関の経営環境の変化や教員不足等により、地域連携プラットフォームの実質化による地域での教育リソースの共有がより一層求められる
- ・ 若年女性で特に顕著な若者の県外流出傾向が、本学の志願者、入学者確保や、山形県の活力、社会経済等の維持に強い影響を与えることが懸念
- ・ 起業家・イノベーション人材の地域における育成と地域への定着、地域の国際化への貢献が期待

### 3. 山形大学の存在意義、強み及び課題

#### 存在意義

- 総合大学として多様な分野の教員配置。行政、医療、産業、農業、教育、文化・芸術・スポーツ発展へ貢献
- 地域及び産業界のニーズに対応。それぞれの分野で活躍する専門的知識を有する人材を育成
- 大学の知と地域の課題とをつなぎ、地域に根ざした教育研究と成果還元の実施
- がん治療、食料問題、環境問題等、社会的でグローバルな課題解決への貢献
- 国立大学として基礎科学をはじめとした重要な学問分野の継承・発展、地理的・社会経済的なアクセス確保による高等教育の機会均等

#### 各学部の強み

人文社会科学部	地域のシクタク、多文化共修プログラム、地域人材の輩出、ナスカ研究、ジェンダー研究
地域教育文化学部	教員養成、自治体・教育委員会、各種スポーツ・文化関連団体、地域との繋がり
理学部	生命・スピコン・南極・宇宙・データサイエンスに関する研究、地域STEAM教育等、総合理学的教育組織
医学部	医療人材養成、コホート研究、重粒子線治療、Well-Being
工学部	有機材料、3Dプリンタ、ペロブスカイト、マテリアルズ・インフォマティクス、情報・デジタル
農学部	スマート・テロワール、国際交流

#### 課題

山形大学の強みを活かした学位プログラムの創出	本学でしか実現できない魅力的な学位プログラムの構築。管理運営業務の効率化、質の高い研究時間を確保し、組織的に研究を推進して教育に還元することで、大学の存在感を高める必要
入学志願者の減少	少子化による志願者減への対応。地域の進学希望者、新たな地域の高校生や社会人、外国人留学生など対象拡大。自治体・産業界と連携した学生獲得策
多様な学生への対応	多様な個性を持つ学生の増加による、教育、学生支援での教職員の負担への対応。学生の質的変化への対応のため、専門人材の配置等による教育、学生支援の更なる充実
地域共創の強化	地域課題の把握や組織的連携が不十分で継続性にも課題。地域課題解決への貢献と教育資源への活用により、双方にメリットのある共存共栄の関係構築
柔軟で強靱な経営体制の構築	将来の見通しや社会の要請を的確に把握し、カリキュラム精選、学生定員適正化など、重点分野へ戦略的に資源配分。教育コストを適切に管理し、限られた経営資源の効率的・効果的な活用
ブランディングの強化	山形大学の強みや地理的特性を活かした教育研究の推進とその取り組みの発信、戦略的な広報活動を強化により、「山形大学ブランド」を確立

# 4. 山形大学教育改革グランドデザイン2030

本学を取り巻く現状、山形大学の存在意義、強み及び課題を踏まえ、“教育の質改革”と“教育推進の経営改革”を一体的に進めるための「山形大学教育改革グランドデザイン2030」(YU-Ed2030)を策定する。これにより本学の機能を高め、2030年を目途に本学を持続可能な大学へと転換していく。

## 山形大学教育改革グランドデザイン2030 (YU-Ed2030)



教育のビジョン実現

学生が自分の成長を実感できる学びを提供  
他者と力を合わせて持続可能な幸福社会を創りあげる人材を育成

# 5. 戦略的重点領域とその教育を実現するための基本的観点

## 戦略的重点領域



## 基本的観点

### 魅力的な学位プログラムの創出

- ① 多様な専門人材の育成と学生の多様性を尊重した学びの推進
- ② 地域課題の解決に貢献できる教育の拡充
- ③ 学部等・研究科の枠を超えた共通教育基盤の強化
- ④ 全学的な教学マネジメントの強化

### 学位プログラムを支える 組織運営体制の強化

- ⑤ 柔軟な教員組織体制
- ⑥ 学生教育を支える基盤の強化
- ⑦ 広報とエンロールメント・マネジメントの強化
- ⑧ 経営改革

# 6. アクションプラン-教育の質改革

## 教育の質改革

(学位プログラムを中心とした教育・質保証体制)

### ①教育組織の再編

#### 実施事項

- 学士課程・博士前期課程（修士課程）・博士後期課程（博士課程）の再編
  - ・教育学部の新設（基本的観点②）
  - ・戦略的重点領域や教育推進の経営改革を踏まえた学部等（社会共創デジタル学環、教育学部を含む。）・研究科の検証・見直し（基本的観点①②）
  - ・文理融合教育組織の拡充（基本的観点③）

### ②学位プログラムの再編

#### 実施事項

- 多様で特色のあるプログラム編成
  - ・副専攻プログラムの導入（基本的観点①）
  - ・本学でしか実現できない特色のある学び（基本的観点①②）
  - ・汎用的技能の育成による実践力の強化（基本的観点③）
  - ・多文化共修科目、ダイバーシティ教育（基本的観点③）
- 学士・修士及び大学院5年の一貫教育の推進
  - ・学士課程3年一貫基盤教育の実質化（基本的観点①）
  - ・大学院でのトランスファブルスキルと専門領域を先導する能力育成（基本的観点①③）
  - ・産官学が連携した実践的大学院教育推進（基本的観点①②③）
- リカレント教育の推進
  - ・卒業生や社会人の学び直しの支援（基本的観点②⑦）

### ③教育推進・質保証

#### 実施事項

- 教育の質保証
  - ・基盤力テストの改善と開発（学士・修士・博士）（基本的観点④）
  - ・学修履歴証明書の発行（基本的観点④）
  - ・IRに基づくカリキュラムの改善やFDの実施（基本的観点④）

### ④入試・学生支援

#### 実施事項

- 入試体制
  - ・入学者選抜方法・体制の検証・見直し（基本的観点⑦）
  - ・短期大学・高等専門学校等の優秀な学生の編入学の促進（基本的観点⑦）
- 学生支援体制
  - ・学生の学び・生活支援パッケージの構築（基本的観点⑦）
  - ・学生主体のチャレンジプロジェクトの推進（基本的観点⑦）
  - ・学生の住環境への支援（基本的観点⑦）
  - ・留学モビリティ支援の充実（基本的観点③⑦）
  - ・博士人材への総合的支援（基本的観点⑦）

※各項目の末尾の括弧書きは、対応する基本的観点を表す。

## 教育推進の経営改革 (教育資源の配分・利活用)

### ⑤組織・人事制度

#### 実施事項

- 学術研究院の機能強化
  - ・ 研究力の強化と効率的・効果的な教育の実施を両立した教員組織の在り方検討 (基本的観点⑤)
  - ・ 学位プログラムへの教員配置方針の策定 (基本的観点⑤)
- 多様な人材・キャリア
  - ・ 教員の多様なキャリア形成支援 (基本的観点⑤)
  - ・ 実務家教員、クロスアポイントメント活用等による多様な人材確保の推進 (基本的観点⑤)
- 評価・インセンティブ
  - ・ 多様なキャリア、柔軟な教員配置に対応した教員人事評価 (基本的観点⑤)
  - ・ 教員の活力を生み出すインセンティブ制度構築 (基本的観点⑤)

### ⑥会計制度・情報発信

#### 実施事項

- 会計制度
  - ・ 教育事業会計の整備による教育コストの見える化 (基本的観点⑧)
  - ・ 基金の充実による財政基盤の強化 (基本的観点⑧)
- 情報発信
  - ・ 教育研究や入試などに関する広報の戦略策定と実施 (基本的観点⑦)
  - ・ 大学ホームページの構成の見直し (基本的観点⑦)

### ⑦教育を支える基盤

#### 実施事項

- 支援体制
  - ・ 教育の多様化に対応した伴走支援型教育体制の強化 (基本的観点⑥⑧)
  - ・ UEAの配置 (基本的観点⑥)
  - ・ 教務・学生支援業務のDX化・事務組織改編 (基本的観点⑥)
  - ・ 専門性発揮、教職協働を担う事務職員育成 (基本的観点⑥)
  - ・ 障がい学生を支援するYUハートサポート充実 (基本的観点⑥)
- 連携体制
  - ・ 実践的な学びを支える地域との共育体制 (基本的観点⑧)
  - ・ 他大学との共同開講・単位互換の推進 (基本的観点⑧)

### ⑧教育環境

#### 実施事項

- 教育インフラ整備
  - ・ 授業形態の高度化・新たな学修体験の提供を可能とする教育プラットフォーム構築 (基本的観点⑧)
  - ・ 全県域でのフィールドワーク環境の整備 (基本的観点⑧)
  - ・ 多様な教育に対応した教室の再配置 (基本的観点⑧)

※各項目の末尾の括弧書きは、対応する基本的観点を表す。

# 7. スケジュール①

教育の質改革			第4期 (2024-2027)		第5期 (2028-2030)
			R6 - R7	R8 - R9	R10 - R12
① 教育組織の再編	(学士課程・博士前期課程(修士課程)・博士後期課程(博士課程)の再編)				
	教育学部の新設	教育・戦略企画室	教育学部設置準備	教育学部設置	定員見直し等の検討
	戦略的重点領域や教育推進の経営改革を踏まえた学部等・研究科の検証・見直し	各学部	学部等・研究科の再編検討・設置準備	学部の改組 ※必要に応じて前倒し	
	文理融合教育組織の拡充	教育・戦略企画室	文理融合教育組織の設置検討・設置準備	文理融合教育組織の設置	
② 学位プログラムの再編	(多様で特色のある学びの実現)				
	副専攻プログラムの導入による多様な学びの推進	教育推進機構 各学部	学位プログラムごとに検討 公表・学外周知	※可能な範囲で前倒し実施	全学展開 ※評価検証しながら継続実施
	本学でしか実現できない特色のある学び	教育推進機構 各学部	学位プログラム再編に併せて検討		
	課題発見・解決能力等の汎用的技能の育成による実践力の強化	デジタル共創推進本部 教育推進機構	情報専門人材育成の全学的な戦略の策定	専門教育・大学院への展開検討し、順次展開	アントレプレナーシップ教育の実施・充実化検討
	国際化を推進する多文化共修科目の拡充実現や、多様性への理解を高めるダイバーシティ教育の充実	国際交流推進機構 ダイバーシティ推進室	多様なグローバル体験プログラムの構築・充実化検討	ダイバーシティ教育等の実施・充実化検討	

# 7. スケジュール②

教育の質改革		第4期 (2024-2027)		第5期 (2028-2030)
		R6 - R7	R8 - R9	R10 - R12
② 学位 プログラムの再編	(学士・修士及び大学院5年の一貫教育の推進)			
	学士課程での3年一貫基盤教育の推進	教育推進機構	学部等・研究科の見直しに併せて検討 ●→	提供 ※評価検証しながら継続実施 ●→
	大学院でのトランスファラブルスキルと専門領域を先導する能力の育成	教育推進機構	学部等・研究科の見直しに併せて検討 ●→	提供 ※評価検証しながら継続実施 ●→
	産官学が連携した実践的大学院教育の推進	教育推進機構	学部等・研究科の見直しに併せて検討 ●→	提供 ※評価検証しながら継続実施 ●→
	(リカレント教育の推進)			
	リカレント教育による卒業生や社会人の学び直しの支援	社会共創推進室	副専攻プログラム等の給付制度認定 ●→ 公表・学外周知 ●→	評価検証しながら継続実施 ●→
③ 教育推進 ・質保証	(教育の質保証)			
	基盤力テストの改善と開発(学士・修士・博士)	IE推進センター	開発実施 ●→	プレ実施 本格実施 ※評価検証しながら継続実施 ●→
	学修履歴証明書の発行	教育推進機構	検討 ●→	実施 ●→
	IRに基づくカリキュラム改善やFDの実施	IE推進センター	●→	評価検証・改善・FD実施 ●→

# 7. スケジュール③

教育の質改革		第4期 (2024-2027)		第5期 (2028-2030)
		R6 - R7	R8 - R9	R10 - R12
④ 入試・ 学生支援	(入試体制)			
	入学者選抜方法・体制の検証・見直し	アドミッションセンター	入学者選抜方法の改善検討 ● → ●	文理融合学部を設置 に合わせた入試改革 ● → ● (パイロツ的に試行)
	短期大学・高等専門学校等の優秀な学生の編入学の促進	各学部 企画・戦略室	編入学定員の見直し ● → ● 短期大学・高等専門学校等との連携検討 ● → ●	入学者選抜方法の改善検討 ● → ●
	(学生支援体制)			
	学生の学び・生活支援パッケージの構築	総合学生支援機構	支援制度の整理・再構築 ● → ●	パッケージの構築・学外公表※評価検証しながら継続実施 ● → ●
	学生主体のチャレンジプロジェクトの促進	総合学生支援機構	事業実施 ※評価検証しながら継続実施 ● → ●	
	学生の住環境への支援	総合学生支援機構	学生寮、住環境支援の在り方検討 ● → ●	在り方を踏まえた対応実施 ● → ●
	留学モビリティ支援の充実	国際交流推進機構	支援策検討 ● → ●	支援実施 ● → ●
	博士人材への総合的支援	教育推進機構 総合学生支援機構	やまがた次世代共創イノベーション 人材育成プログラム事業実施 ● → ●	※学部等への横展開の可能性検討、 評価検証しながら継続実施 ● → ● TA等の教育補助者に関する規程整備 ● → ● FD実施 ● → ●

# 7. スケジュール④

教育推進の経営改革		第4期 (2024-2027)		第5期 (2028-2030)
		R6 - R7	R8 - R9	R10 - R12
⑤ 組織・ 人事制度	(学術研究院の機能強化)			
	研究力の強化と効率的・効果的な教育の実施を両立した教員組織の在り方の検討	教員人事委員会	在り方検討 移行期間 新体制へ移行 ※評価検証しながら継続実施	
	学位プログラムへの教員配置方針の策定	教員人事委員会	教員組織と並行して検討 移行期間 新方式へ移行 ※評価検証しながら継続実施	
	(多様な人材・キャリア)			
	教員の多様なキャリア形成支援	教員人事委員会	制度検討 制度実施 ※評価検証しながら継続実施	
	実務家教員、クロスアポイントメント活用等による多様な人材確保の推進	教員人事委員会	学環で検討・構築 教育学部等で可能性検討	
	(評価・インセンティブ)			
	多様なキャリア、柔軟な教員配置に対応した教員人事評価	総務部人事課	教員組織と並行して検討 移行期間 新方式へ移行 ※評価検証しながら継続実施	
	教員の活力を生み出すインセンティブ制度の構築	総務部人事課	制度化の検討	

# 7. スケジュール⑤

教育推進の経営改革			第4期 (2024-2027)		第5期 (2028-2030)
			R6 - R7	R8 - R9	R10 - R12
⑥ 会計制度・ 情報発信	(会計制度)				
	教育事業会計の整備による教育コストの見える化	財務部	在り方検討 → 予算編成方針・予算案の作成		
	基金の充実による財政基盤の強化	社会共創推進 事務室 EM部 企画・戦略室	ファンドレイジング計画に基づく活動 ※評価検証しながら継続実施 → EM体制見直しになる同窓会との連携強化 → ふるさと納税による資金還流の検討		
	(情報発信)				
	教育研究や入試などに関する広報の戦略策定と実施	広報室 アドミッシ ョンセン ター	入試広報戦略の策定 → 大学全体の広報戦略の策定 → 評価検証・改善		
	大学ホームページの構成の見直し	広報室	広報戦略を踏まえて検討見直し実施 ※広報戦略を踏まえ随時見直し		
⑦ 教育を支 える基盤	(支援体制)				
	教育の多様化に対応した伴走支援型教育体制の強化	教育推進機構	体制の検討 → 教育プラットフォームの構築に併せて実施		
	UEAの配置	教育推進機構	必要性検討・概算要求		
	教務・学生支援業務のDX化・事務組織改編	事務協議会	DX推進計画に併せて事務のDX化 → 教員組織に併せて事務組織改編		
	専門性を発揮し、教職協働を担う事務職員の育成	事務協議会	キャリアパスの明確化・資質能力の育成		
	障がい学生を支援するYUハートサポーターの充実	総合学生支援機構	YUハートサポーターの養成・支援体制強化		

# 7. スケジュール⑥

教育推進の経営改革			第4期 (2024-2027)		第5期 (2028-2030)
			R6 - R7	R8 - R9	R10 - R12
⑦ 教育を支える基盤	(連携体制)				
	実践的な学びを支える地域との共育体制構築	教育推進機構	●→ 地域との連携可能性を検討 ●→ 人員配置の必要性検討・概算要求		
	他大学との共同開講・単位互換	教育推進機構	●→ 教育学部の設置に併せて検討	※その他の学部も可能性検討	
⑧ 教育環境	(教育インフラ整備)				
	授業形態の高度化・新たな学修体験の提供を可能とする教育プラットフォーム構築	教育推進機構	●→ システム検討・概算要求	●→ システム導入・オンデマンドコンテンツの充実化	
	全県域でのフィールドワーク環境の整備	教育推進機構 社会共創推進室	●→ 地域との連携体制強化	●→ フィールドワークの充実化	
	多様な教育に対応した教室の再配置	各キャンパス 施設部	●→ 稼働状況の可視化検討	●→ スペースの戦略的活用	

## 8. グランドデザイン策定にあたっての意見交換

	年月日
教育・戦略企画室	令和6年5月2日(木)、6月18日(火)、8月6日(火)、 10月17日(木)、12月2日(月)、12月5日(木)、 令和7年1月17日(金)、1月29日(水)、3月4日(火)、 3月6日(木)
教育研究評議会	令和6年11月11日(月)、12月11日(水)、 令和7年3月12日(水)
経営協議会 (学外委員(経済・産業界、 アカデミック分野、地方公共団体、 マスメディアなど))	令和6年11月27日(水)
キャンパス執行部 意見交換 (学部長・教育/入試担当 副学部長・学科長など)	令和6年8月1日(木)～9月9日(月) 人8/8・理8/9・医8/26・工8/1・農8/9・基盤8/1 ・学環9/9